議事録

会議の名称	令和7年度第1回西東京市総合教育会議	
開催日時	令和7年5月2日（金）午後2時から午後3時35分まで	
開催場所	西東京市役所 田無庁舎4階 第1・2教育委員会室	
出席者	池澤市長 萱野副市長 後藤教育長 米森教育長職務代理者 服部教育委員会委員 今井教育委員会委員 宍戸教育委員会委員 （事務局） 柴原企画部長 門倉企画部参与兼企画政策課長 山本企画政策課企画政策担当主査 利根川企画政策課企画政策担当主査 豊田企画政策課企画政策担当主任 佐藤公共施設マネジメント課長 遠藤子育て支援部長 福所児童青少年課長 小菅生活文化スポーツ部長 河野協働コミュニティ課長 佐野教育部長 早川教育部特命担当部長 坂本教育企画課長 大内社会教育課長 （傍聴人） 1人	
議題	1 協議 (1) 総合教育会議の進め方について (2) 令和7年度の教育に関する重点施策について 2 報告 (1) 田無第三中学校の建替えについて (2) 総合的な放課後児童対策について ア 学童クラブの過密化対策について イ 放課後子供教室のあり方の検討について (3) 戦後80周年平和大使派遣事業について 3 その他	
会議資料の名称	資料1	総合教育会議の進め方について（案）
	資料2	令和7年度の教育に関する重点施策について
	資料3	令和7年度 田無第三中学校建替協議会の検討スケジュール（案）
	資料4-1	学童クラブの過密化対策について
	資料4-2	（参考）令和7年度の学童クラブの入会状況について
	資料4-3	タイムシェア報告（田無柳沢学童クラブ@柳沢小学校）2024年11月
	資料4-4	タイムシェア報告（東学童クラブ@明保中学校）2024年11月
	資料5	西東京市放課後子供教室あり方検討委員会の設置について
	資料6-1	令和7年度 平和事業の取組予定について
	資料6-2	戦後80周年平和大使派遣事業について
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録	
会議内容		

○市長：

ただいまから、令和7年度第1回西東京市総合教育会議を開会いたします。
なお、本日は山田教育委員から欠席の御連絡をいただいています。

○市長：

本日の会議は、西東京市総合教育会議会議規則に基づき公開いたします。傍聴については、西東京市総合教育会議傍聴要領の規定に基づき10席までの傍聴を認めます。会議の議事録は、発言者の発言内容ごとの要点記録といたします。御異議ありませんか。

<異議なし>

議題1 協議事項

○市長：

それでは「議題1」「協議」に入ります。

「(1) 総合教育会議の進め方について」事務局より提案がありますので説明をお願いいたします。

(事務局説明)

○市長：

これまでは私が進行役となり、会議を進めてきましたが、本来の総合教育会議の趣旨を踏まえ、教育委員の皆様と私がより充実した意見交換をする場にしたいという考えから、進行については事務局が担うこととさせていただきます。御理解をいただければと思います。御意見等ありましたらお願いいたします。

<意見等なし>

○市長：

特に御意見等はないようですので、提案のとおりとさせていただきます。令和7年度以降についても、この形で進めたいと思いますが、課題等が生じてきましたら、都度、見直しの上、御提案をさせていただきます。

ここからの進行は事務局をお願いいたします。

○企画部長：

ここからは私が進行役を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

「議題1」「(2) 令和7年度の教育に関する重点施策について」事務局より説明をお願いいたします。

(事務局説明)

○企画部長：

御意見等ありましたらお願いいたします。

特に御意見等はないようですので、令和7年度の教育に関する重点施策について、本案の通り決定することに御異議ありませんか。

<異議なし>

○企画部長：

御異議ないようですので「令和7年度の教育に関する重点施策について」は、本案の通り決定とさせていただきます。

議題2 報告

○企画部長：

次に「議題2」「報告」です。

「(1) 田無第三中学校の建替えについて」事務局より説明をお願いいたします。

(事務局説明)

○企画部長：

御意見等がありましたらお願いいたします。

○米森教育長職務代理者：

DXの推進の観点から、学校施設の中でWi-Fiが繋がりにくい場所があることは、優先的な課題ではないかと思えます。また、タブレットと教科書を広げると机が狭い気がします。そういう点も考慮して今後の建替えをしていただきたいと思います。プールについては、底が可動し、低学年も入りやすくなるようなプールもありますが、故障の際にメンテナンスが充分にできないとかえって負担になる場合もあります。安全面等も考慮しながら設備を考えていただき、良い施設になるよう検討してもらいたいと思えます。

○教育企画課長：

ネット環境の充実や広い机、教室の広さ等については、学校施設個別施設計画に基づき対応していきます。プールについても、地域の方の利用も見据えつつ、子どもたちの安全、安心の視点をしっかり持って取り組んでいきたいと考えています。

○服部教育委員：

夏がとても暑く、気候変動の中で子どもたちが心配なことも多いため、ミストは必須で入れていただきたいです。先日は雨も降っていないのに落雷があったことから、防災面も考えた施設をお願いします。

公共施設との複合化について、具体的に検討している施設や機能があったら教えてください。

○教育企画課長：

ミストの導入や防災の視点は、これから具体的な施設の整備を検討していく中でも課題であると認識しています。委員からいただいた御意見を踏まえ、子どもたちや地域の皆様の御意見等もお聞きしながら進めていきたいと考えています。

○公共施設マネジメント課長：

複合化される公共施設・機能については、市民集会所、保育園、児童館、相談窓口や交流スペース等が候補となりますが、現時点では決まっていません。

○宍戸教育委員：

複合化に当たっては、学童クラブの過密化の解消等、放課後児童対策の視点を取り入れていただきたいです。プールについては、経費や教員の負担もあることから、田無第三中学校だけで使用するのではなく、他の小・中学校との共用や、地域開放等の検討も必要だと感じます。

○教育企画課長：

複合化による施設管理の面で、学校に負担が増えることがあってはならないと考えています。地域の方も利用していく施設については、管理運営主体も含め、市長部局と連携をしながら検討を進めています。また、御提案にもありましたように、全ての学校にプールを設置するのではなく、近くの小学生が使用したり、子どもたちが使用していない時間は、地域で使用する等の視点も持って検討を重ねていきます。

○今井教育委員：

学校が多目的な施設になると、様々な方が出入りすることになり、セキュリティが心配です。学校は子どもたちが主体だと思いますので、安全安心な場所であって欲しいと思います。

○市長：

貴重な御意見ありがとうございます。学校を複合化する場合も、子どもたちを第一に考えていきたいと思っています。学校が建てられれば、約60年は子どもたちが過ごすことになり、その後のことも考慮して、どのように建替えていくのかを考えなければいけないと思っています。

私は、学校が地域のキーステーションとなり、子どもたちだけではなく、地域の方も学校を中心にコミュニティが形成できるような、そういう施設になれば良いと考えています。交流スペースや相談機能が備わることで、何かあった時に学校に集まり、顔と顔が繋がっていく、そういう施設になると思っています。同時に、来校者の動線を整理する等のセキュリティの問題はしっかり対応しなければいけないと思っています。

田無第三中学校をどこで建替えるのかは、教育委員会の皆様ともしっかりと話し合いをさせていただき、最終的には私が決めていきたいと思っています。また、どのような学校を建てていくのかは、教育委員会の皆様と意見交換する中で、しっかり議論をして進めていきますので、委員の皆様からも御意見をいただければと思います。

○教育長：

学校現場でも、これから様々なICTの活用が考えられ、地域の方々も利用するとなると、充実したWi-Fi環境が必要だと思います。

プールについては、例えば全校に設置するのではなく、新しく設置するところ、民間のプールを活用するところ等、様々な考え方があると思います。

学校は何十年間と使用するため、その時代に応じた対応が生じてきます。教室の広さや数等、余裕を持って建てる必要があるのではないかと考えています。

○宍戸教育委員：

直近では中原小学校とひばりが丘中学校が新設されて、地域への開放や、複合施設に結びつくような視点で設計がされています。どういうことで課題になるのか、動線の考え方やうまくいっていること等、実際の学校の実情をよく聞いた上で、田無第三中学校に活かしていただきたいと思っています。

○教育企画課長：

既存の学校の地域利用の現状や課題等、整理をしながら検討していきたいと考えています。

○企画部長：

次に「報告」の(2)総合的な放課後児童対策について「ア 学童クラブの過密化対策について」及び「イ 放課後子供教室のあり方の検討について」事務局より説明をお願いいたします。

(事務局説明)

○企画部長：

御意見等がありましたらお願いいたします。

○米森教育長職務代理者：

昨年も登録数と定員数との差には開きがあり、超過しているところもあると聞いていましたが、その後も利用者は増えています。急増した背景を教えてください。また、タイムシェア等もあると思いますが、短期的、長期的な対応の今後の考えをお聞かせください。

○児童青少年課長：

令和6年5月1日に子ども家庭庁の調査で学童の待機児童数のランキングが発表されました。西東京市は全国で81位、市部では9番目に高い状態でした。本市は1次募集から3次募集まであり、1次

に応募された方は全員入所していただいておりますが、2次募集、3次募集となった時に空きがなく、待機となっている状況です。

短期的な対応としてタイムシェアもありますが、学童クラブの民間活力の活用や放課後子供教室との連携等、様々な手立てを考えています。

また、長期的には学校の建替えに合わせ、教育委員会とも連携し、学校施設内に学童クラブを入れていければと考えています。

○子育て支援部長：

利用者数が多い理由としましては、就労される方が増えていると分析しています。ニーズも伸びているため、学童クラブの民間活用等も、学校の中に入れていくことと同様に検討していきたいと思っています。

○米森教育長職務代理者：

定員超過率が200%を超えるところは、非常に逼迫している可能性が高く、先手を打たないといけませんと考えますが、タイムシェアを追求するということになるのでしょうか。

○児童青少年課長：

タイムシェアだけでは、学校の空き教室の状況もあり、難しいものと捉えています。

○今井教育委員：

主に定員超過率が高いところがタイムシェアの実施校となっていると思いますが、200%を超えている谷戸や本町第二学童クラブについてはどうするのでしょうか。現在、ほとんどの学童クラブが定員超過で、実際の登所人数が多い時は8割くらいということですが、児童館ですと児童館を利用する人も加わって相当な人数になり、怪我やトラブルも多くなるのではと心配もあります。指導員の方々も日々苦勞されていると思いますが、具体的な毎日の過ごし方を教えてください。また、利用されている保護者の方から実際に届いている御意見があれば、お聞かせください。

○児童青少年課長：

児童館と併設しているところは、児童館にも分散している状況です。児童館を利用しているお子さんもいらっしゃいますので、安全第一で対応しています。保護者からは全員入所への感謝の言葉、過密化については何とかして欲しい等の御意見をいただいています。

○服部教育委員：

タイムシェアですが、柳沢小学校や明保中学校は固定した部屋で、子どもたち用の棚がありますが、家庭科室等になると毎日行く子どもたちの荷物の配置や工作などの継続した遊びが可能なのかという問題が出てくると思います。子どもたちが遊ぶ、暮らすとなると当然用意されるべき環境があると思いますが、どのように確保していくのか。また、地域の子どもたちの遊び場としての児童館が学童スペースに成り代わってしまうことのないよう留意いただき、保護者にとって安心で、子どもたちにとって安全な施設としていただきたいです。

空き家が公共スペースとして利用されている例もありますが、空き家の利用はできないのでしょうか。

○児童青少年課長：

小学校内に併設している学童クラブの備品の移動については、学校と調整をさせていただいて置き場所を確保したり、作成中の工作についても指導員が工夫をして対応しています。

児童館との棲み分けですが、児童館も人気が高く、中高生の利用も多いところです。将来的には学童クラブは学校の敷地内に収める形で対応できればと考えていますが、現時点では、児童館の職員や学童の職員と連携を取りながら、安全安心で活動できるように対応している状況です。

空き家の利活用は今後の検討課題とさせていただきます。

○宍戸教育委員：

学童クラブの過密化は課題だと思っています。これまでも、学校の空いている時間を使うタイムシェアは行ってきましたが、超過率を見ると更なる対策が必要だと感じます。教育課程においても教室が足りず、少人数で授業をやりたくても「教室がなくてできません」という話も聞いています。貸し出した気持ちはあっても、どこの学校も厳しいのではないかとというのが実感です。

市全体で拠点となる場所に、大規模な学童クラブを造るといようなことも考えなくてはいけないのかと、超過率を見ながら思いました。

○市長：

学童クラブの問題について、私は短期、中期、長期と3つに分けて考えています。短期は、タイムシェアで取り組んでいくこと、中期は、学校の中に学童クラブのスペースを設けていくこと、長期としては、学校の建替えに合わせ、学童クラブを整備していくことかと思っています。

東学童クラブが明保中学校の体育館の1階に、タイムシェアということで学童クラブの一部を移した事例が令和6年の7月からスタートしています。

明保中学校の御理解と御協力をいただいて、今後一定期間継続して使えるようであれば、学童クラブとして位置付けていくことも可能かと思っていますので、こういった発展性を持った対策も取っていきたくと思っています。

学童クラブと放課後子供教室の連携ですが、以前、放課後子供教室の視察に行った都内の学校では、子どもたちは学校が終わるとランドセルを昇降口に置いて、そのまま放課後子供教室に参加していました。学童クラブに行っている子どもたちは、学童クラブに一度行って、それから放課後子供教室に参加して、放課後子供教室に学童クラブの子どもたちも参加するという状況で、校庭がほぼ満員な状態になっていました。学校教育ではないので、放課後子供教室との棲み分けが必要だと思いましたが、校長先生にお話しを聞くと、怪我をした時や下校時に事故があった場合の問題等が心配だという御意見がありました。

宍戸教育委員にお聞きしますが、放課後子供教室や学童クラブ、子どもの居場所のこのようなやり方は学校現場としてはどう捉えられ、どうお考えになられていますでしょうか。以前の校長先生としての御意見をいただければと思います。

○宍戸教育委員：

一番に感じるのは管理の問題です。何かが起こった時に、どちらが管理しているのか、その管理下がどうなのかということが心配です。

学校の管理で施設を使うことは賛成ですが、校庭で遊ぶ時間も先生がついているわけにもいきませんし、指導員が先生と同じ目線で子どもたちを見ているのかということ、それも違います。問題が起こった時にどう対処するのかが、保護者の心配ごとです。うまく整理ができれば良いと思いますが、そういった点を私は一番懸念してしまいます。

○市長：

怪我をした時の対応の問題や下校時の事故の責任はどちらが持つのか等、いただいた御意見を踏まえ、考えてみたいと思います。ありがとうございました。

○企画部長：

次に「報告」「(3) 戦後80周年平和大使派遣事業について」事務局より説明をお願いいたします。

(事務局説明)

○企画部長：

御意見等がありましたらお願いいたします。

○服部教育委員：

素晴らしい企画だと思います。多くの応募があると良いと思います。広島との交流というのは何か具体的なことはありますか。

○協働コミュニティ課長：

今回、平和学習の受け入れプログラムというものを受講します。現地の若者、同世代との交流の中で、平和について考える予定です。

○今井教育委員：

素晴らしい企画だと思います。学校に協力してもらいチラシを配って、子どもと保護者、両者にこの情報が届くと、多くの人に関心を持ってもらえると思います。

映画の上映会もされるということですが、親子で見られる作品や中高生向け等、いろいろな対象向けの映画があると嬉しいと思います。

○協働コミュニティ課長：

幅広い年齢層に見ていただける作品を選んでいきたいと考えています。

中高生の周知についてですが、市内の中学校9校全員にチラシを配ります。市内の高校にも声掛けを行う予定で、多くの方に応募していただけるように、広く募集をしていきたいと考えています。

○生活文化スポーツ部長：

映画祭についてですが、9月に開催される市民映画祭において、平和に関する映画のプログラムも取り入れ、今回の平和大使の中高生の発表会等も行う予定としています。

○米森教育長職務代理者：

80周年の節目に、戦争を風化させない、子どもたちに平和の大事さを知ってもらう大事な試みだと思います。市内の中学校で、平和に関する取組がどのくらいされているのかもわかると思いますので、多くの中学生に参加いただけると良いと思います。高校生については、平和に関して強い想いを持っている、中学生の参考になるような人を入れていただけると良いのではないかと思います。

○協働コミュニティ課長：

多くの中学生に参加してもらえるよう周知に努めます。また、募集の際には応募動機も把握する予定です。

○生活文化スポーツ部長：

高校生については、平和大使としての参加だけではなく、中学生のサポートや、市と一緒に企画から運営までを行う、高校生と大学生の若者スタッフという別の方法も設けて、そちらの参加も呼び掛けています。

私立の学校については、学校を回って掲示板等での周知をお願いする予定です。

昨年の平和の事業におきましても、私立に通われているお子様の参加実績もありますので、注目はいただいている事業だと認識しています。

○副市長：

平和大使は市の目玉事業として大いに期待されていると思います。子ども若者ワイワイプランを策定する時の子ども会議の中で、もっと生徒会に声を掛けて欲しいという意見がありました。この事業は大使として現地に行くことも大事ですが、参加した子どもたちが語り部になって、いかに広く伝えていくかということがもっと大事だと思います。出身校に限ることなく、1人でも多くの中学生、高校生、子どもたちに伝えていく工夫をしていただきたいと思います。

○市長：

今回の平和大使派遣事業は今年が目玉事業の一つと考えています。3日間、私も同行し、子どもたちと一緒に平和をしっかりと学んできたいと思っています。

高校生と大学生世代の若者スタッフが、平和をどう学んだら良いか、会議を開いて検討しています。2回目の会議に私も出席しましたが、そこでは、広島と長崎については学校で学ぶこともあるため、そこに重きを置くのではなく、西東京市でも戦争があったということをもっと身につけ、それから現地に行って、資料館にある西東京市の展示を見ながら平和について考える、そういう取組が良いの

ではないかという意見も出ていました。

3日間の行動は撮影をして、報告会で皆さんに御覧いただけるようにしたいと思っています。現地から発信できるものもあるのではないかとこの若者スタッフのアイデアもあったことから、これについてはしっかりと取組み、平和について考えるきっかけにしたいと思っています。

この4年間、平和の取組に力を入れてきました。

昨年の8月、小学生の時に平和の学習で西東京市の事業に参加した子が、中学生になって自らスタッフとしてパネル展に参加してくれました。これは本当に素晴らしいことだと思いました。「平和の大切さについて、しっかり学ぶことができました。これから自分が何ができるかを考え、行動していきたいです」と話をしていました。

また、新町の大空公園で小学6年生の子どもたちと広島の被爆樹木二世の苗木を植樹した時に「なぜこんな辛い過去を伝えていかななくてはいけないのかと思ったけれど、伝えていかなければ平和は繋がっていかないと、植樹をして感じることができました」と素晴らしい意見がありました。

これまでの平和の取組の中で、少しずつ、平和の大切さを身に付けて自ら行動できる子どもたちが増えていると感じています。

今回の平和大使派遣事業を通して、皆様と平和の大切さを共有できればと思っています。

報告会には、委員の皆様にも御参加をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

○企画部長：

「報告」は以上とさせていただきます。

議題3 その他

○企画部長：

最後に「議題3」「その他」です。皆様から何かありますか。

○服部教育委員：

市長が平和について取り組まれているのは素晴らしいと思います。田無の駅前に平和のリングがありますが、西東京市の北部にも、そういった肌で感じられるようなものがあると良いと思います。

平和大使になってくれる人が広く浸透すると良いと思っています。

○企画部長：

事務局から何かありますか。

(事務局説明：会議資料及び議事録の公表、次回の開催予定について)

以上をもちまして、令和7年度第1回西東京市総合教育会議を閉会いたします。
ありがとうございました。